

寺
ごよみ

四 月

- 一 日 下村お講
- 一〇日 清掃奉仕
- 一一日 雪ん子劇団新学期
- 一二日 歎異抄講座
- 一四日 明教院師を訪ねて
- 一六日 栗虫お講
- 一七日 常見寺住職継職法要
- 二三日 花摘み

花の誕生会

二四日九時 お寺の学校
十時 初参式

おつとめ
記念珠贈呈
おはなし
縁日

冥加金 三千元

お申し込みは二十日まで
地区総代さん又はお寺
までご連絡ください

寺報

善 巧

発 行

〒 938-0862 富 山 県
下新川郡宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メー ル zengyou@box.email.ne.jp
U R L http://www.zengyou.net



四月二十四日十時 花の誕生会

みんなのいのちありがとう

陽の光が暖かくなってきました。冬の寒さに身を縮めていたのが嘘のように、身も心も和らいできました。暖かな光に包まれるとき、親鸞聖人のお書きになった御和讃を思い出すのです。

無碍光の利益より
威徳広大の信をえて
かならず煩惱のこほりとけ
すなわち菩提のみずとなる

高僧和讃の曇鸞讃には、阿弥陀様の他力信心を得たならば、必ず煩惱の水が解けて浄土を願う菩提心となると、親鸞聖人は阿弥陀様のはたらきを讃歎されています。

この御文は私の煩惱が消えてなくなると言う事を言っているのではありません。私たちは煩惱一つ除く事が出来ない身で

あたたかなひかり

あり、この命が終わるまで煩惱を纏いながら生きなければなりません。それはどうしようもない事実なのです。

しかしながら、阿弥陀様の光に出会い、阿弥陀様の救いの目当てが煩惱具足のこの私であつたと気付かせて頂くのです。煩惱の火が燃える度に阿弥陀様のおはたらきを感じ、煩惱に振り回される度に暫愧するのです。地獄行きの私の煩惱がそのまま喜びの種となるのです。

その阿弥陀様のはたらきが南無阿弥陀仏のお念仏となつて私にはたらいているのです。お念仏申すとき、春の光に包まれているような、阿弥陀様のお慈悲の深さを感じずにはおれません。

常見寺住職

利井 唯明 師

平

化

歎異抄に聞く (二)



本願寺勸学

よしやましようかい
靈山勝海和上

五劫思惟の願

それでは、聖人のお言葉ですが、どれだけ聖人の言葉なのかということを見ておきますと「弥陀五劫思惟の願をよくよく案ずれば」から、「本願のかたじけなさよ」まで、かぎかつこされておりますから、これで一つでございす。それから終わってから四行目に飛びまして、その前に「聖人

の仰せには」とあつて「善惡のふたつ、総じてもつて存知せざるなり。そのゆゑは、如来の御ところに善しとおぼしめすほどにしりとほしたらばこそ、善きをしりたるにもあらめ、如来の悪しとおぼしめすほどにしりとおしたらばこそ、悪しきをしりたるにてもあらめど」とこの聖典では濁りの点が打ってあります。私は『註釈版』『原典版』のこ

とを、よく知りませんが、蓮如上人のお書きになった文章には濁りの、点はついていないので、これは「あらめど」とも読めるし「あらめど」とも読めるのです。この聖典で「ど」と読んでいるのは、次に、続けるために「ど」と濁りを打ってありますが、これを香月院は、ここを切りまして、「あらめ」とおっしゃった、と。そしてその次に、またかぎかつこを施しまして、この文章を二つの文章に分けて解釈なさっています。そして、後ろの方「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごととはごと、まことあることなきに」と言う虚仮の私と、それから「ただ念仏のみぞまことにしておはします」という念仏の真実を、対句になっているのですが、その「あらめど」と続けますと前の文章は、何を語っているのかというと、煩惱具足の凡夫に真がない、ということの説明になります

から、「ただ念仏のみぞまことにしておはします」に対句になるのには、ちよつと前の説明が多すぎて、そういうパランスの問題として、どうであろうかという疑義がありまして、これを「と」と読みたい、というのが香月院の理解であります。けれども現在これを二つの文章に分けて、読んだある注釈書というものは、私はほとんど見ておりませんから、ここは若干無理があつても、「あらめど」と読んだ方が、当たり障りが無くていいかもしれません。

形のことだけ今申しましたが、そこでまず、ここはやさしい文章のようですが、なかなか骨が折れるんでありますで、「弥陀五劫思惟の願」というこのことは、『大経』に説かれている重要な項目ですから、とやかく言わんでもいいかなとも思いますが、弥陀五劫思惟の願、兆載永劫の修行というのが、理性的にはなかなかうなづけないことでご

ざいます。だからなかなか現代人が受け取ってくれない所です。私も自身なかなか理性的には受け入れられないお話です。だからこれを、まず最低、理性的にも受け入れられるように解釈をして、うかがっていきたいのであります。

五劫思惟、兆載永劫といのは、これは無限の時間のことです。ありますから、無限の時間というものを通して、何が語られてあるのかということではあります。無限というのはこれは真理の特性でございます。仏教のイロハである諸行無常の言葉を使っていると言います。常という言葉で、永遠ということですから、千年経つても、万年経つても腐らない、変化しないもの。というのは、これは法則なのです。ルールなのです。ダルマです。ですからこれは五劫思惟、兆載永劫の修行の果てに、南無阿彌陀仏というお念仏が、名号が成就されてある、ということでは、名号というのは法則であ

る。法則というのは一切の人々を差別しません。区別しません。法則を使えば、九々も法則であります。小学校の二、三年生がやった計算結果であっても、ノーベル賞をもらった大学者がやった計算であつても、同じ結果が出てくる。答えが一緒である。それは江戸時代の計算であつてもこれから千年二千年経った後であつても、同一の結果が出てくる。それが法則ということになります。念仏というものが法則として成就せられてある。こういうことを「五劫思惟の願をよくよく案ずる」という所で、ちよつと思ふのであります。

親鸞一人がため

そしてその五劫思惟の願が、親鸞一人のためである。これも計算上、言葉の上でちよつと難しいのであります。ご本願は、対象が「十方衆生」となっています。成就文で申しますと、「諸有衆生」となってい

ますから、十方衆生と如来様が呼びかけられるのを、親鸞聖人は「親鸞聖人一人がためなりけり」と仰せられるのであります。一人占めになさるおつもりでないことは、ご承知のとおりであります。計算上はなかなかいい具合に落ち着かない面があるのです。

これを成立させるためには、如来様の慈悲というものが十二光で示されておりますが、そのどこを取ってもいいようなものですが、無辺光というものがございします。無辺光というのは、辺がない、際がない、果てがない。この机であるとか、この本堂を見ますと、その当たりは中央で、あの当たりは端っこになるのですが、端がないということは、どこでも中心部になる、という事です。球体の丸い地球儀の表面上のどこか一点でも、そこが中心であるというのと一緒であります。ですから無辺といいますのは、数学の言葉で申しますとどこで捕ら

えてもそれが中心点である。私が立っている場所において、その如来の本願の全体を、ここが中心だと受け取ることができる、というのが「親鸞聖人一人がためなりけり」ということとございましょう。そして又もう一回言い替えますと、十方衆生を必ず救済する、というのがご本願ですから、十方衆生というのは一人残らずですから、一人残らず救うということでは、親鸞一人が除外されたら十方衆生は成立しない。ということなんです。すなはちこの私は別なんだと言ったら、十方衆生は成立しないわけなんです。そういう意味で一切の人々が一人ずつ本願に直結して、所被の機であると表していらつしやるのでもあり、そしてこのお言葉というのはことに尊く、信心を受けとる受止め方としてこういう姿勢を崩しては、主體的な姿勢を崩しては成立しないのであります。

御正忌報恩講

一月十三〜十六日

浄土真宗で最も大切な
ご法要、宗祖親鸞聖人の
御正忌が例年どおり四日
間にわたってお勤まりに
なりました。



広島より服部法樹師



善巧寺副住職教隆



転法輪正視師
(福井)



成人おめでとう！

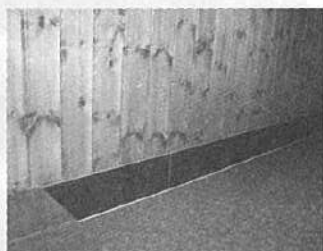
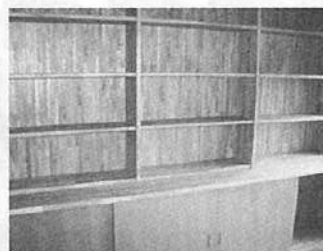


第三期工事完成

平成九年に勤修された住職継職奉告法要の記念事業として最後になっていた第三期工事がこのほどようやく完成しました。まず玄関が壁、天井、床の張替えと下駄箱の新調で生まれ変わり、フロアを広くして、玄関先でもお話の出来るスペースをとりました。記帳場と旧事務所は足の都合の悪い方も入りやすいフロリングにしました。施工は門徒の二業者で話し合い、板屋の島田工務店にお願いしました。四十五年前、鉄筋の建築がはしりの頃の建物ですから、結構傷



みが激しく、今回の改修は大変ありがたいことでした。六年間にわたってご懇志を届けてくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございます。是非お越しくださって、見て使ってください。



前坊守一周忌

営まれる

三月十二日前坊守雪山喜子の一周忌が勤まりました。寒さの戻った冷え込んだ本堂には、親戚、総代、仏婦の方々や前坊守と親しかったご門徒さんたちがお参り下さいました。ご法話はこのたび常見寺の住職となられた利井唯明師が平易な言葉でお取り次ぎ下さいました。この法要にあわせて前坊守の句集『花の道』が記念の品として発刊されました。



明るくのびのび

富山の雪ん子劇団が創立25周年迎え記念公演を開催

子どもたちの健全な成長を願って結成されたことばの教室「雪ん子劇団」が昨年25周年を迎え、12月26日に富山県宇奈月町のホールで記念公演を行い、約400人が詰めかけた(写真)。同劇団の卒業生らでつくる「雪ん子シニア」の10周年記念公演も併せて行われた。



同劇団は、宇奈月町・善巧寺(雪山俊隆住職)の故・雪山隆弘さんが、演劇を通して明るくのびのびと自己表現できる子どもを育てようと、昭和54年に設立した児童劇団。平成2年に隆弘さんががんで亡くなった後も、妻の玲子さんが後を引き継ぎ、これまでに約250人が巣立っている。

「自分のことより、ちょっと人のことを」「みんな主役」をモットーに、思いやりの気持ちを大切にしており、こうした活動を聞きつけて、近隣の黒部市や魚津市からの参加者もいる。これまでの公演も、県内をはじめ鹿児島県や新潟県など、全国に活動の場を広げている。

記念公演では、「こども落語」に続き、25年間演じ続けている手話ミュージカル「うちの父ちゃんえらいんだ」(作・

竹内永)を33人の小学生が元気よく演じた。

シニアは、トルストイ原作のミュージカル「なかまたち」を上演。8人が舞台上に立ち、牛やニワトリなど動物になりきり、迫真の演技を披露した。

主宰の玲子さんは「照明や音響などは、卒業生らが自主的にやってくれ、子どもたちの成長が見られてうれしかった。25年の道のりが実感できた」と話す。

雪ん子25周年とシニア10周年を記念して作成されたCDには、雪ん子の十八番「明日に向かって」(作詩・竹田えり)とシニアのオリジナル曲「なかまたち」、各曲のカラオケが収録されている。CDは1枚500円(送料別)。問い合わせは善巧寺内・雪ん子劇団☎0765(65)0055。

▲本願寺新報より

人コミュニケーション

大きな拍手 原動力 25周年の記念公演

「雪ん子劇団主宰 雪山玲子さん」

小学生でつくる宇奈月町の「雪ん子劇団」が、昨年12月26日に25周年の記念公演を終えた。「いい舞台。みんなよくやってくれた」。主宰する善巧寺の雪山玲子さん(62)は満足そうだった。



「開演1時間前に舞台

裏にいますとスタッフが飛んできて、(お客さんが)いっぱい並んでるんですって言うんです。すごいうれしくて。年の瀬にもかかわらず、家族連れら約400人が足を運んだ。

ユージカル「うちの父ちゃんえらいんだ」を披露。

劇団の卒業生らでつく

胸が熱くなりました」と70代の女性。こんな言葉と大きな拍手が原動力だ。

「シニア」の「なかまたち」で締めくくると、舞台の幕が下りるまで拍手が鳴りやまなかった。

劇団を一緒に始めた同寺住職で夫の隆弘さんが、ガンで亡くなったから14年余が過ぎた。

劇団のホームページは<http://yukinko.exblog.jp/>で、隆弘さんに話しかけるようにこつこつと載っている。「じんと

「25年も続けてくるのができてよかったね」。ホームページでは

▲朝日新聞より

大きく育った「雪ん子」元気



劇団25周年で記念公演

子どもたちでつくる宇奈月町の「雪ん子劇団」が発足から25周年を迎えた。26日、宇奈月国際会館セシネで記念の公演を催す。小学生たちは毎年、上演している手話ミュージカルと簡単な落語を披露。中学生から社会人までの「シニア」は、旗揚げ公演と同じ作品をリニョールして再演する。

「雪ん子劇団」は、同町浦山の善巧寺住職だった故雪山隆弘さんが、のびのびと明るく、自己表現ができる子どもを育てようと、79年に設立した。14年前に亡くなったからは、妻の玲子さん(62)が引き継いでいる。

劇団員は小学生。これまでに約250人が巣立った。中には、大学の演劇コースを専攻し、演劇照明の勉強をした男性や専門学校で劇団スタッフや声優を目指している女性もいる。

「シニア」は、小学校卒業後も演劇をしたいという子どもたちの声を受けて、15周年のときにつくった。毎年、上演するのではなく、今回のような節目の年などに集まって、公演している。

25周年記念公演へ向けて練習する「雪ん子劇団」の子どもたち
宇奈月町浦山で

巣立ったシニアも参加 26日宇奈月で

「25周年フェスティバル」で上演するのは、小学2年～6年までの32人。宇奈月町内の二つの小学校と魚津市、黒部市、入善町の小学校からも参加している。

作品は、「うちの父ちゃんえらいんだ」(作・竹内永)。大切な仕事をしているお父さんのことを家族で話し合い、「うちの父ちゃんはずばらしい」と言える子どもになってほしいとの願いを込めて、25年間演じ続けている劇団の十八番。低学年が演じ、高学年がダンスなどでサポートしている。落語は、6年生5人と4年生1人が披露する。

「シニア」は、照明などのスタッフを含めて約20人が参加。うち8人がトルストイ原作の本格的な演劇「なまたち」に挑戦する。25年前の旗揚げ公演の演目で、動物たちが働くことの大切さを学ぶといった内容。家族で楽しんでもらおうと、初演時にはなかったが、頭に動物の絵をつけて演じる。

雪山玲子さんは「子どもたちは、人の大切さやみんなを取り組む尊さを、体で感じてくれている」と話している。

公演は26日午後1時半開演。入場料500円。問い合わせは同劇団(0765・65・0055)へ。

▲朝日新聞より

◀北日本新聞より

寺
ごよみ

五月

一日 音沢お講①

一五日 仏教団花まつり

一六日 音沢お講②

一七日 歎異抄講座

二二日 行信教校専精舎

二六日 夏講

二九日 総代会・教化推進協議会

寺
ごよみ

六月

一日 東狐・上野お講

一六日 音沢お講③

一七日 歎異抄講座

元気いっぱい卒業公演

宇奈月町の善巧寺劇団の卒業公演が二十七日、同町浦山の善巧寺で行われ、二十六期卒業生十三人を合わせ三十人の団員が元気いっぱい

宇奈月の
雪ん子劇団



「桃太郎の冒険」では、現代っ子の桃山次郎が、桃太郎の母の桃太郎だとして鬼ヶ島に行く物語。鬼退治にと勇んだが、鬼たちが人間を愛わない心を持つことが最後は気持ちを通わせる。

団員たちは、それぞれの役を精いっぱい演じ、観客から大きな拍手が送られた。

元気いっぱい卒業公演の様子を撮影した写真がこちら

第二十九回

花まつり く 花の誕生会 く

四月二十四日 十時

花まつりとは、お釈迦さまの誕生日（四月八日）。善巧寺では、花まつりに合わせて、赤ちゃんの誕生を祝う「初参式」を行います。赤ちゃんが生まれたらまずお寺で初参り。新しいのちをみんなでお祝いしましょう。

受付は九時半

冥加金三千元

ご連絡は

二十日までに

六五—〇〇五五



行信教校専精会八十周年記念大会

五月二十五日

午前七時…集合

午後一時…常見寺参拝・行信教校一泊

二十六日…午後本山参拝・一泊

二十七日…帰敬式・納骨・京都見学・帰院

費用は三万円程度

お申し込みはお早めに

清掃奉仕

四月十日午前八時半

（雨天順延）

明教院様をたずねて

四月十四日午前九時集合
行き先

入善持専寺…善巧寺の旧

本堂が移された

お寺

水橋渡辺家…明教院さま

の実家

上市明光寺…明教院様を

育てられたお寺

昼食は気の向くまま風の

向くまま

花つみ

四月二十三日

午前八時集合



ちぎり絵展

期間 四月二十四日～

五月十八日

橘照子ちぎり絵教室
門徒会館にて



お稚児さん！

仏教団花まつり

五月十五日午後

今年は枳屋の法傳寺で
仏教団の花まつりが行わ
れます。稚児行列が出ま
すので、小さなお子様
おられる方は、記念に参
加してみたいかがでし
ょうか。

お問い合わせは法傳寺
（五六—八二四五）

* 仏教団は黒部、入善、
宇奈月地区の寺院（宗派
問わず）の集まりです。

総代会

教化推進協議会

五月二十九日午後一時

合 掌

この二月は久しぶりの大雪で、といつても十数年前までは当たり前だったのですが、雪の量と寒さに負けそうでした。

* * *

とは言うものの、御正忌の後はほんこさんが三月半ばまで続き、雪ん子も公演が一月末二月末にあつて気の休まる暇もありません。三月末の卒業公演を終えてようやく春を待つ気分になります。

* * *

「皆にあえてよかった」「たくさんの方が喜んでくれたことが嬉しかった」「人としてどうあるべきかを教えてもらった」「雪ん子で教えてもらったことを宝物として生きていつて欲しい」今年も卒業生とそのご家族から嬉しいメッセージをもらいました。

